

千葉公園の歴史と自然ガイド 2011（報告）

1 日 時 平成 23 年 10 月 23 日(日) 10:00~12:00

2 参加者 22 人（うち親子 2 組）

3 講 師 斉藤久芳（中央・稲毛公園緑地事務所）

4 行 程

①東門広場 → ②蓮華亭 → ③遊具広場 → ④ボタン園 → ⑤大イチョウ広場 →
⑥荒木山 → ⑦巖島神社 → ⑧トンネル → ⑨東門広場

5 実施概要

- ・はじめに昔の千葉公園がどうだったかのクイズを出し、園内での解説を通じて徐々に明らかになっていくという形式で進んだ。

①東門広場

- ・千葉市には戦前から 千葉公園（現・羽衣公園）、亥鼻山公園（現・亥鼻公園）、荒木山公園（現・千葉公園）の三公園があった。
- ・昭和 20 年の空襲で市街地の三分の二が焼失した。戦後、昭和 21 年、戦災復興都市計画の一つとして、鉄道連隊演習地跡に千葉市最初の総合公園計画（21ha）を決定。
- ・昭和 24 年(1949)から公園建設を始め、同年に野球場、陸上競技場（競輪場内 S62 廃止）、S27(1952)ポート池、S31(1956)体育館、S35(1960)プール、S36(1961)展望台の他、児童コーナー、小動物コーナー（サル舎、水禽舎、鳥舎）、西洋花壇、お花見広場などが整備され、昭和 40 年(1965)ころ現在の形になった。

②蓮華亭

- ・綿打池北畔の藤棚は 1989 年、中央公園から移設されたもの。
- ・紅葉のメカニズムや木の実の種類、葉の形について解説。
- ・大賀ハスの発掘～開花～栽培、平成 5 年ハス池の整備、花の見方について解説。



③遊具広場

- ・プッシュホン型の滑り台など遊具の歴史、カツラ・イチョウ・トチの紅葉を解説。

④ボタン園

- ・西洋式の整形花壇、ボタン・シャクヤク園（2003 整備）。
- ・タイムトンネルのモニュメントは 1990 年の EXPO' 90 国際花と緑の博覧会に千葉

市が出展したもの。中央の大形土器制作の裏話などを解説。

⑤大イチョウ広場

- ・小動物コーナー：サル舎（アカゲザル 33 匹）、水禽舎（アヒル・カモ等 100 羽）、鳥類舎（クジャク・キジ等 15 種 30 羽）、動物公園の開園に伴い平成元年に閉鎖。
- ・大イチョウは、幹周 2.6～3.3mあり、約 30 年間で 1.6～1.9 倍に肥大生長している。
- ・荒木山へ行く途中公園一番の巨木クスノキを観察。幹周り4.3mもあるが傍の切り株から年輪や方角を観察すると、戦後植えられた木と分かる。

⑥荒木山

- ・大正7年（1918年）鉄道連隊増強され、従来の千葉市にあった連隊を第一連隊、津田沼にあった第三大隊を基幹として第二連隊が発足した。両連隊は軽便鉄道で結ばれた。
- ・戦時陸軍の鉄道連隊が鉄道架設の訓練をした橋脚の一部が遺されている。
- ・この小高い丘は連隊のラッパ手の訓練場であり「喇叭山」と呼ばれて親しまれてきたが、満州事変で殉職した荒木大尉の銅像が建立されてから「荒木山」と呼ばれるようになった。戦時中に銅像は供出されてしまったが、山の名前だけが残っている。
- ・高台には昭和60年まで高さ28mの展望台があり、富士山が望め花見の場所として賑わった。今は高層建築に遮られ陸軍と彫られた小さな石碑に名残りを見るのみ。

⑦巖島神社

- ・綿打池とは、江戸時代の綿打職の太郎兵衛さんの機転で、ひょうたん池(当時は広々とした瓢箪形をしていた)の地籍を寒川村が獲得した功績に因む。
- ・神社には蛇の祠が安置され江戸時からの歴史ある弁天様で地域の信仰を集めている。
- ・逆さまの馬の文字の謂れ → 空襲の難から逃れた霊験あらたか（ご利益）。

⑧トンネル

- ・トンネルに向かう途中、綿打池の東岸から荒木山を望み、昭和 11 年の鳥瞰図と見比べ、荒木山公園と呼ばれていた当時の景色を想像する。
- ・最後に鉄道連隊の遺構：コンクリートのトンネルを見学して、現在から江戸時代へ 400 年のタイムトラベルが終る。

⑨東門広場

- ・山有り池有りの公園の一周で、公園になる前は「軍隊の演習場だった」「もっと以前は池や湿地、松林や畑だった」が初めのクイズの答。
- ・「千葉公園の歴史など知らなかったことを沢山学んだ」、「千葉公園だけでなく椿森や轟、作草部に残る歴史や遺跡の観察会を行ってほしい」などの意見が聞かれた。